

2024

10.30 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_wpDDWh8PQ4G91sGQd9KWNQ

【技術支援】九州大学 Q-AOS

未来の水産養殖に向けた取り組み

司会：横田 文彦 准教授 (Q-AOS コーディネーター)



Key Words

完全養殖マサバ

食料生産

生殖幹細胞

ブルー・トランスフォーメーション

太田 耕平 教授

農学研究院 資源生物科学部門



大阪府生まれ。1996年に九州大学農学部を卒業後、2003年3月に同大学院生物資源環境科学研究科博士後期課程を修了し、博士（農学）の学位を取得しました。その後、九州大学ベンチャービジネスラボラトリー講師、自然科学研究機構基礎生物学研究所（日本学術振興会特別研究員（SPD））、米国ハワイ大学医学部（日本学術振興会海外特別研究員）、愛媛大学南予水産研究センター准教授を経て、2016年に九州大学大学院農学研究院准教授に着任し、2023年に現職に就きました。魚類の性や生殖の仕組みについての基礎研究や養殖魚の生産技術にかかわる研究開発を行っています。

主な受賞歴：日本水産学会 水産学奨励賞

世界の水産物需要が高まるなか、水産養殖の生産量は増加を続けています。一方、今後のさらなる生産の拡大と効率化のためには、より多くの技術革新が必要になると予想されます。本セミナーでは九州大学で行われている完全養殖マサバの事例をはじめ、先端生命科学を利用した魚類の育種技術開発や天然資源に依存しない資源循環型の生産技術開発などの、未来の持続可能な水圏食料生産に向けた取り組みを紹介します。